



愛媛生協病院も停留所

地域まるっと 走ってつなぐ チョイソコおのくめ

愛媛医療生協



愛媛生協病院のある小野・久米地域は、バスや電車の最寄りからも遠く、車がないと通にくい場所。そのため2台のバスで送迎をおこなっています。1999年の別館増築のときに、地域の交通について検討し、組合員へのアンケートやタクシー会社への聞き取りなどもおこないましたが、具体的にはありませんでした。その後地

交通の問題が待ったなしに

「チョイソコ」というしくみをご存知ですか？ 地域の交通不便の解消、高齢者の外出促進を目的に開発され、利用者の行きたい場所まで相乗りのタクシーなどを運行するしくみです。株式会社アイシンが開発したこのシステムを使い、地域の実情に合わせ固定路線なし・時刻表なし・予約型のデマンド型交通が始まっています。松山市では、4つの地域（久枝・石井・石手・小野久米）でとりくまれ、愛媛生協病院がある地域では「チョイソコおのくめ」「チョイソコいいし」が運行しています。



松山市地域包括支援センター
小野・久米
NPO法人まるっとおのくめ
理事 松山絵理香さん



久米北支部
NPO法人まるっとおのくめ
理事 高下和子さん



愛媛生協病院がある小野・久米地域

域の高齢化はすすみ、交通問題が待ったなしになっていきました。

そんなとき、久米地区まちづくり協議会にネットトヨタ瀬戸内から「チョイソコくめ実装に向けて」という企画書が持ち込まれました。当初、ネットトヨタ瀬戸内は実装に向けての運営主体を「まちづくり協議会」が担うことを期待していましたが、様々な事情が重なり、断念。しかし、この企画書が松山市地域包括支援センター小野・久米（以下 地域包括）としてまちづくり協議会に参加していた松山絵理香さんの目に留まります。

同じ思いでつながって

地域包括で高齢者の相談にあたってきた松山さんは、こうふりかえります。「このしくみがあれば、高齢者の生活が変わる！ 外出が自由になると元気になる！」。

愛媛医療生協久米北支部の高下和子さんは、「交通の問題は諦めていました。私自身が動けなくなってきた、免許を返納したら、もうお手上げ……。絶対実現させたい！」と

思いました」と話します。高下さんと松山さんは、チョイソコ導入の動きを、愛媛医療生協の支部はもちろん、小野地域の民生委員、そして交通課題を解決したいと考える地域の人や団体にひろげていきました。2021年7月には「チョイソコおのくめ」の実現に向けてキックオフミーティングを、11月には「NPO法人まるっとおのくめ（以下 まるっとおのくめ）」を立ち上げ、住民主導による問題解決のプロジェクトがスタートしたのです。

走る！ つながる！ チョイソコカー

2022年5月、チョイソコカーの運行を開始。利用会員の自宅と、協賛金で応援してくれる賛助会員の店や事業所、病院・診療所が「停留所」になります。もちろん愛媛生協病院にも停留所ができました。利用会員は自宅から目的地の停留所を予約。利用者の予約からAIでルートを導き、大型タクシーが複数の利用者を乗せて走ります。予約の窓口とA

Iによるルートづくりはネットトヨタ瀬戸内が、運行は地元のタクシー会社が担います。自宅から病院やスーパーマーケットといった生活に欠かせない場所へ、利用者に乗せ、降ろし、また乗せて：地域をぐるぐる走ります。1日40件ほどの利用があります。

利用者からは、「外出できてうれしい」「診察にかかる時間を考えて、行きと帰りを予約。時間の計算は脳トレになるわ」という声も上がっています。相乗りのタクシー



自宅が停留所



目的地（停留所）に到着



松山学院高等学校
メディア広報部長
花山宗太郎さん



決められたルートに沿って利用者を乗せ地域を回る



チョイソコカーの中で相乗りになった利用者がおしゃべり

の中では、利用者どうしの交流も生まれ、仲よくなつて一緒にお出かけしたグループもありました。

つながりづくりも大切に

「まるっとおのくめ」では、移動の自由から生活の質を高めること、交流の機会をつくることも大切にしました。賛助会員の店とコラボする「まるっとカフェ」や、携帯電話会社とのコラボ「スマホ教室」「体操教室」など。参加希望者は、会場（停留所）にチョイソコカーで行くことができます。スマホ教室は、簡単な操作から繰り返し教えてくれると人気です。松山学院高等学校（以下 松山学院）とのコラボでは、文化祭に参加しました。こうした企画には、企業や店が、賛助会員になることで地域に目を向け、開かれた存在になってほしいという願いも込めています。

交通から交流に

そんなイベントのひとつが8月に開催した「まるっとマツガクカ

フェ」。猛暑日にもかかわらず、20人ほどの利用者が参加し、松山学院の学食で食事や生徒との交流を楽しみました。

松山学院のメディア広報部長

花山宗太郎さんは「当校は地域に愛される学校をめざしています。チョイソコの賛助会員に高校がなかったので、先駆けになろう！と参加しました」といいます。松山学院には「子どもたちの元気な声が響き、地域の人が集うやさしさ」に包まれた学校に」という方針があります。「生徒たちは同世代としか話す機会がないので、地域の人たちとの交流はすごく刺激になったのでは」と花山さん。「話が合わなかったら、と不安だったけど、みなさんすごくやさしくて楽しかった」「将来の自分を考えるいい経験になった」と生徒たちの笑顔が眩しい企画になりました。

「運営する私たちと利用者、地域のみなさんが、チョイソコにかかわることで、交流でき、互いを思いやる気持ちが生まれている。交通が交流になっていると感じます」と高下さんはいます。



参加者を見送る生徒たち



まるっとマツガクカフェで交流

地域の活動が基盤になって

「まるっとおのくめ」は、自治体からの援助は受けず、地域住民の



NPO法人まるっとおのくめのみなさん



小野・久米地域の支部長会議でも「チョイソコおのくめ」について意見交流



NPO法人まるっとおのくめ
副理事長 宮内桂子さん



NPO法人まるっとおのくめ
副理事長 武井直子さん



事務局長 阪本千都子さん

力で運営してきました。地域住民として、小野・久米地域の6つの支部長も参加。久米支部支部長の宮本愛子さん、ていれぎ支部支部長廣瀬恵美子さんもそのメンバーです。「久米支部では独居の方への配食と見守りを続けています。その中でチョイソコをすすめたり、利用者には『チョイソコおのくめだより』を配ったり、フォローもします」と宮本さん。

「まるっとおのくめ」副理事長の武井直子さんは、「愛媛医療生協組合員や小野地区の民生委員の活動が基盤にあったから、地域にひろげることができた」といいます。こうした基盤に立って、地域で協力してくれる賛助会員をふやす必要があります。賛助会員には、地域の課題に目を向け、主体的にかかわる仲間になってほしいと働きかけてきました。

楽しくワクワク まちづくり

「まるっとおのくめ」のみなさんの楽しく元気な活動の秘訣を聴くと、「それぞれ得意分野で力を出し合うスタイルがおもしろい」という言葉が返ってきました。愛媛医療生協の理事などで活動してきた経験がある「まるっとおのくめ」理事長の宮内桂子さんは「チョイソコを走らせるという目的に向かうチームワークがすごい！楽しみながら課題を解決するスタイルは医療福祉生協の事業や活動にもプラスになるところがある」と笑います。武井さんは、「居宅介護支援事業所を運営。ケアマネジャーをしています。『仕事とは別に地域にかかわる機会を持ちたい』と参加するようになりました。」

住民主体で運営しているチョイ

ソコは全国的にも珍しいのとこと。活動資金が厳しい部分も、メンバーの力を寄せ合っています。事務局長の阪本千都子さんは、専用携帯電話をもち、問い合わせから利用申し込み、苦情はもちろん、ドライバーから利用者の様子で気になったことの聞き取りもおこなう、チョイソコおのくめにかかわる様々な人をつなぐ要になっています。

松山さんは、ここが居場所にもなっていると感じています。「体調が悪かったり認知症を患ったりすると、活躍できる場や居場所がなくなっていく…。『まるっとおのくめ』は、どんな人でも活躍できる場。声をかけたら集まってくれる仲間、地域のために何かやりたいと思っている人は必ずいることが心強い」と話します。

さらに前へ

みんなの思いがぎゅっと詰まったチョイソコおのくめ。当初70人だった利用者は110人に。停留所は132から255にひろが



利用者に割引券を用意してくれるスーパーも



地域をぐるぐる走るチョイソコカー



コープえひめ店舗前の停留所

りました。
その一方で新たな課題にも挑戦
しています。

チョイソコを利用するには「時
間がかかっても自分で車の乗降
ができる」「予約したことを憶え
ている」ということをクリアしな
ければなりません。しかし、足腰
が弱ったり、記憶力の低下などで
利用が厳しくなる方も出てしまし
た。こうした現状を踏まえて、付
添者もチョイソコに登録できるよ
うに改善しました。

さらに、2台の運行では利用者
のニーズに沿うことができず、
「予約が取りづらい」といった意
見が寄せられています。「将来的
に6台走らせたい」と考えていま
すが、それには地域の企業や事業
所の協賛金に頼る運営だけでは厳
しく、自治体からの補助も視野に
入れなければ…といます。しか
し「一方的な助成をお願いするの
でなく、自治体も仲間として参画
してほしいと考えています」と松
山さん。「交通も交流も自分たち
でつくり出さないと、動けない人
はどんどん動けなくなり、人と人

とが疎遠になっていく。それに一
石を投じる活動にかかわれてラッ
キーです」。

「まるっとおのくめ」では、外出
機会の創出が健康にどんな効果が
あるのか、研究者と一緒に調査も
おこなっています。そこでは人と
会うことで、幸福感が増している
というデータもあり、健康づくり
やまちづくりの視点から地域の交
通を考えているのです。

地域の中に 地域とともに

現在日本の至る所で、交通弱者
と活動機会の減少が問題となっ
ています。愛媛医療生協 地域事業
部長 大場安希子さんは「交通の
問題で組合員活動に参加できな
くなったという声も聞きます。そ
れにどうアプローチするのか…。
チョイソコで組合員活動の場を
つなぐことも考えたい」と話し
ます。また、専務理事 大西壽美子
さんは今後について次のように話
します。「チョイソコで生まれた
地域とのつながりを、愛媛医療生
協として、どう発展させていくか

が鍵。協賛事業所として応援を強
めつつ、チョイソコとのコラボ企
画などにとりくんでいきたい」。

高下さんは、愛媛医療生協への
期待を込めて思いを言葉にして
くれました。「職員が自分の専門
性を活かしながらチョイソコにか
かわってくれるようになるとうれ
しいです。地域のみなさんの困り
ごとが、現実の問題として見えて
くると思うんです。愛媛医療生協
だけではできなかったことが、他
とタッグを組むことで、様々な可
能性を生みました。この経験を事
業や活動にも活かし、生協として
もっと深くひろくかわってけれ
るようになるのが夢です」。

文・コムコム編集部
写真・杉山隆

愛媛医療生協

- 設立年月日 1953年11月14日
- 組合員数 46,075人
- 出資金 9億5,736万7,000円
- 支部・班数 61支部・「場」750か所
- 事業所数 病院2、診療所4、介護関連8

※2024年8月31日現在